

第14回「学びの変革」委員会

出席者

高校教育指導課	阿部課長補佐	○	高校教育指導課	助迫指導主事	○		
校長(委員長)	○	教頭	○	総括事務長	○	主幹教諭	○
指導教諭	○	総務部長	○	進路指導主事(中核教員)	○	実践推進リーダー	○
教務主任	○	1学年主任	○	2学年主任(記録)	○	3学年主任	○

1 他校視察 報告

富山高校・富山中部高校・高岡高校 探究科学科 三校合同課題研究発表会

平成28年12月17日 10:00~15:00 (高岡文化ホール)

三校の代表による発表, ポスターセッションによる各校のグループごとの発表

2 カリキュラム実践

(1) 実践推進リーダーから

① 1年課題発見タイトルの進捗状況

テーマと副題が課題発見・課題解決になっていない。

→自分のこととして取り組めるように, フィールドを限定し, 課題発見・課題解決型になるようにチューターが指導していく。

② 1年「総合的な学習の時間」について

協働して, グループの課題発見のために収集した情報を整理し, グループ内に共有し, レポートの概要を作成する。

③ 各教科年間評価計画

生徒が主体的に単元のなかで課題を発見し, 解決する形にしていく。

(2) 教育研究部から

2年「課題研究セミナー」指導の方向性およびフィールドワーク

課題設定に基づいて企業, 公的施設, 大学などでフィールドワークやアンケート調査, 実験を行い, 提案した課題の検証を行っていく。

→テーマ, サブテーマが課題発見・課題解決になっていないので指導していく必要がある。なぜ協働して研究を行うのかなどグループ研究の意義を生徒に徹底していく。

(3) 中核教員から

「課題発見・解決学習」における「課題」について

project課題とsubject課題の分類についての説明

今後, 校内の掲示板などに掲載し意識統一を行っていく。各教科の学習にも適用していく。

最終的な課題のゴールは見えていなくてもよい。答えの出ないことを考えていく。

4 高校教育指導課からの指導助言

- ・各教科での課題の設定を具体的に論議することによって, 生徒の状況が見えてくる。
- ・課題研究では何が対象で何を示していくのかはつきりさせ, 調べ学習で終わらないようにする。
- ・大学や富山県での課題研究発表など参考にどんなタイトルがよいのか生徒に考えさせる。
- ・「学習者基点」は生徒の実態把握であり, 「深い学び」は各教科の見方, 考え方にある。
- ・文部科学省の答申, 他校の実践例(富山中部高校)など参考に進めてほしい。